

19世紀英国の対中政策に関する最重要史料、
英国外務省ファイルFO 17を全て電子化、手書文字認識 (HTR) に
よる手稿のフルテキスト検索を実装した画期的コレクション



China and the Modern World

Imperial China and the West

part I, 1815-1881

China and the Modern World

Imperial China and the West

外交史、経済史から社会史、国際関係史まで、19世紀の中国・東アジアを俯瞰する資料群

本データベースは、英国外務省の中国関係文書の最重要史料FO 17「1905年以前の外務省中国関係一般文書集」のすべての文書を電子化し、手書文字認識(HTR)による全文検索を可能にして搭載するものです。FO 17は英中関係に関する英文歴史史料としては最大規模を誇る文書集で、1,769巻、110万ページ以上の規模に及びます。収録文書は外務省と清国駐在の公使、領事、上海高等領事裁判所等の中で交わされた急送文書、書簡、覚書、私信で構成されています。初代貿易監督官ウィリアム・ネイピアが広東に着任した1834年以降継続的に文書が残されるようになりますが、それ以前の英中関係に関する回顧録(2巻)とアマースト使節団の記録(1巻)がネイピア用に編纂されたため、1815年が開始年となっています。ネイピアら貿易監督官からジョージ・ボナム、ジョン・パウリング等の香港総督を経て、トマス・ウェイド、ラザフォード・オールコック等の北京駐在公使まで、清国における英国政府代表の役職は変遷しましたが、収録文書の各巻のタイトルの多くはその時々英国政府代表の名前が付されています。収録文書が記録する主題は、アヘン戦争、第二次アヘン戦争、太平天国の乱、マーガリー事件、天津教案、日清戦争、義和団事件等の重大事件、開戦に至る英国政府内の決定過程、戦後処理と講和条約締結に関わる交渉、公使館や領事館における任命や業務引継ぎ、館員の結婚、死亡等の事務、アヘン貿易、茶貿易、英国産業界による政府へのロビー活動、英国貿易商人や中国貿易商人の動向、英国と中国の商業慣行の相違に由来する通商摩擦、海賊取締、中国の対外移民、キリスト教布教、内地旅行権、内地通過税、苦力、フランス、ロシア、アメリカ、日本等の中国での権益拡大を狙う諸外国の動向、ビルマ、タイ、仏領インドシナ、チベット、朝鮮、台湾等の周辺地域の動向等々、非常に広範囲に及び、関連分野もイギリス外交史、中国外交史からイギリス経済史、中国経済史、世界経済史、中国社会史、東アジア国際関係史まで、汎用性の高い資料群です。本データベースは2パート構成で、2021年3月にリリースされたパートIはFO 17/1からFO 17/872まで(1815年-1881年)をカバーし、2021年12月に刊行予定のパートIIはFO 17/873 からFO 17/1769/6まで(1865年-1905年)をカバーします。

手書文字認識による手稿のフルテキスト検索を実装

収録文書は手稿文書とタイプ原稿ですが、本データベースでは手稿文書について手書文字認識(Handwritten Text Recognition, HTR)を実装し、活字資料と同様にフルテキスト検索を実現、手稿文書の学術利用の可能性を飛躍的に高めました。また、様々な条件を設定して検索を行うことで文書を探すだけでなく、FO 17収録の各文書の文書番号、文書タイトル、年代を示した一覧ページも設けられ、一覧ページから各文書にアクセスできます。さらに、詳細検索では文書番号を検索範囲に指定し、文書に精通した利用者のニーズを反映した機能が実装されています。なお、本データベースは研究者の監修の下で制作され、FO 17の学術的重要性や具体的事例を解説する編集諮問委員の解説を収録します。

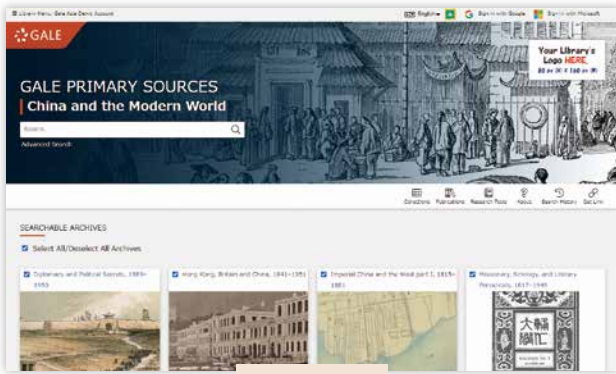
FO 17の目次として作成されたFO 605をメタデータとして統合

FO 17の文書名は非常に簡潔、抽象的であるため、1815年から1890年までの巻については、発信者名、受信者名、巻号、送信番号(Despatch Number)、内容を記載する目次情報が別シリーズとして作成されています(FO 605/44~605/51)。本データベースはFO 17に加えて、FO 605/44からFO 605/51までの25巻に収録されたFO 17の目次情報をメタデータとして各文書に追加することにより、さらに検索の利便性を高めています。FO 605の25巻の原本は画像データとして合わせて収録しています。

19世紀のイギリスと中国

19世紀前半、17世紀末以来のフランスとの覇権競争を制した英国は、最強国として世界各地で勢力圏の拡大に努めました。東アジアでは、1819年にシンガポールを獲得し、インド以东のアジアへの進出の地歩を固めます。1833年には東インド会社の貿易独占権を撤廃し、対中貿易を行なう英国商人を監督する役職として広東に貿易監督官を新設、ここに初めて英国政府を代表する常設機関が清朝領土に設置されるとともに、それまで東インド会社が独占していた英中関係の情報が外務省に集まるようになります。その後、英国は二度に亘るアヘン戦争を経て、マカートニー使節団以来の悲願であった外国公使の北京常駐を清朝に認めさせ、同時に外交管轄機関として総理衙門を創設した清朝との間で近代外交の基礎を築きます。英国の北京公使館は帝国主義の時代に突入した19世紀後半、欧米列強や日本が鎬を削った東アジアにおける英国外交の拠点として、情報収集を行うとともに、自国の権益の拡大に努めます。中国との外交関係樹立の試みの背景には言うまでもなく経済的利害がありました。アヘン戦争後の南京条約から義和団事件後の英清通商航海条約まで、様々な条約が締結される度に、開港場が増え、貿易拡大を阻む障壁が取り払われました。19世紀に英国、植民地インド、中国の間で成立した綿製品、茶、アヘンの三角貿易の中で、中国はインド産アヘンの輸出先と茶の供給地として英国のアジア貿易構造の中で不可欠の環をなしていました。また、世界貿易がロンドンで決済されるようになり、ロンドンに国際金融市場が誕生すると、国際金融の面でも中国は英国にとって重要な拠点となります。さらに、奴隷貿易、奴隷制が世界的に廃止される中で、奴隷に変わる安価な労働力として、中国人をアメリカ大陸に輸送する苦力貿易が盛んになりました。覇権国英国にとって、中国は東アジアに止まらず、世界の政治経済体制の中で重要なポジションを占めていました。

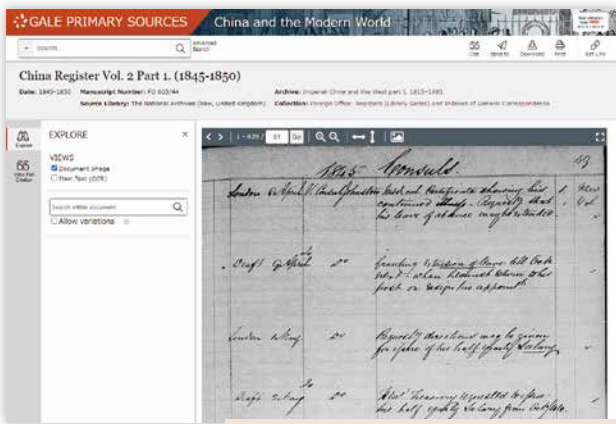
part I, 1815-1881



トップページ



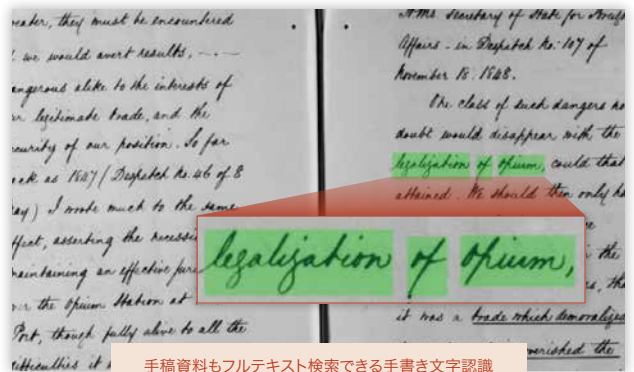
詳細検索では、文書タイトルや全文の他に英国公文書館の文書番号を検索範囲に指定することができます



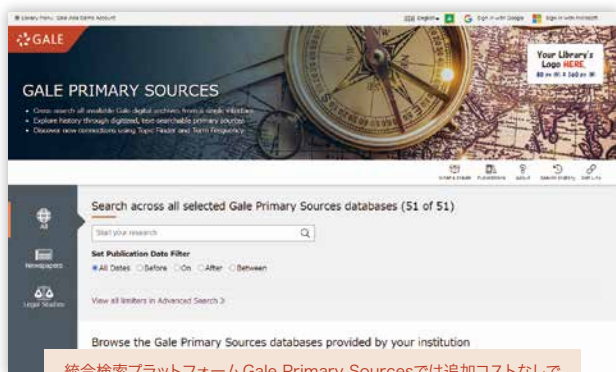
発信者名、受信者名、巻号、送信番号、内容を記載する目次情報を収録するシリーズ (FO 605) が搭載されていますが、目次情報は手入力され、検索に対応でき、FO 17の文書閲覧画面のNote欄で参照できます

FO 17/546	Sir R. Alcock, Mr Wade, Drafts	1870
FO 17/547	Sir R. Alcock, Mr Wade, Despatches	January-March, 1870
FO 17/548	Sir R. Alcock, Mr Wade, Despatches	April 1870
FO 17/549	Mr Wade, Sir R. Alcock	May-June, 1870
FO 17/550	Mr Wade	July-August, 1870
FO 17/551	Mr Wade	September-October 20, 1870
FO 17/552	Mr Wade	October 24-November 12, 1870
FO 17/553	Mr Wade, Sir R. Alcock	November 14-December 21, 1870
FO 17/554	Mr Wade, Sir R. Alcock, Consular, Drafts	1870
FO 17/555	Mr Wade, Sir R. Alcock, Despatches, Consular	January-May, 1870
FO 17/556	Mr Wade, Sir R. Alcock, Despatches, Consular	June-December, 1870
FO 17/557	Supreme Consular Court, Sir E. Hornby, Mr Goodwin	1870
FO 17/558	Consuls at Shanghai, Medhurst, Winchester, Vice-Consul Atabaster Law Secretary Mowat, Shanghai and Chinkiang Trade Reports and Returns for 1869, Inclosure in Consul Medhursts No. 20, Shanghai, 28 July, 1870	1870

各文書の文書番号、文書タイトル、年代を示した一覧ページも設けられ、各文書にハイパーリンクされています



手稿資料もフルテキスト検索できる手書き文字認識 (Handwritten Text Recognition) を実装



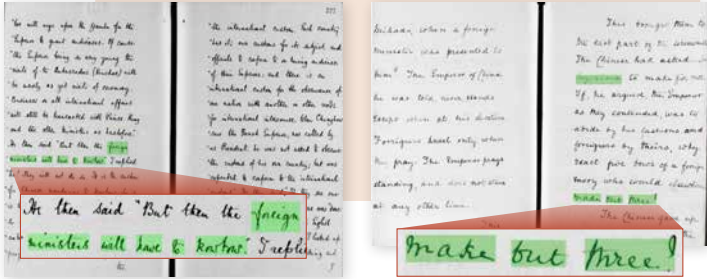
統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では追加コストなしで導入済の Gale の買切データベースとの横断検索ができます



別契約の Gale Digital Scholar Lab では様々なテキストマイニングのツールをご利用になれます。この例は第1部収録の全文書を対象にした N-gram の分析結果を表示したものです

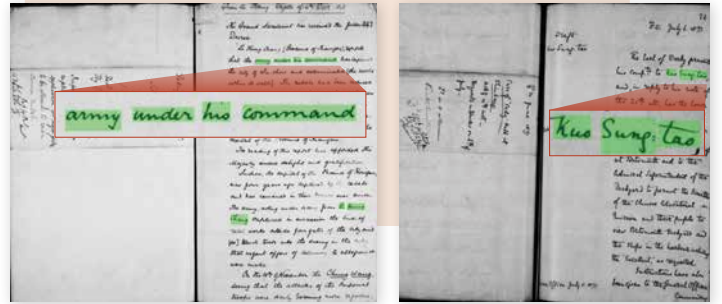
外交儀礼、皇帝謁見、三跪九叩の礼

三跪九叩の礼は英国にとってマカートニー使節団以来の因縁の外交儀礼。左は天津領事のトマス・ウェイド宛書簡で、領事が李鴻章と会談した際、皇帝謁見が話題になり、三跪九叩の礼をしなければならないと李が言うので、外国人には必要ないと即座に反論した、と述べている [FO 17/748]。皇帝謁見の際の儀礼の問題は同治帝が新政を始めた 1873 年に新たな展開を見た。日本の副島種臣が立礼で三回の敬礼を行なうという新しい方式で皇帝に謁見したのである。副島の皇帝謁見については「謁見問題」というファイルが詳しく述べている [FO 17/749]。



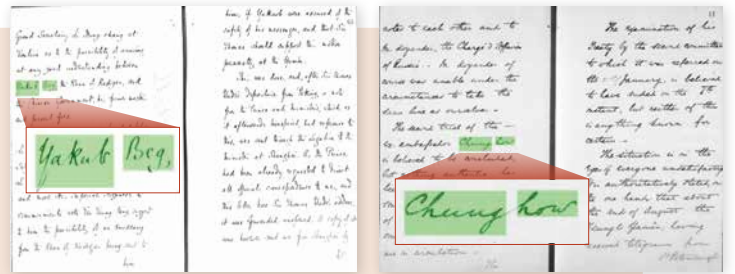
清末の政治家・外交官

英国が相対した清の政治家や外交官は多いが、中でも清末最大の政治家李鴻章は 1863 年頃から継続的に史料にその名前が登場する。マーガリー事件の謝罪使節として英国に派遣され、そのまま初代英国公使に赴任した郭嵩燾は、その名前を冠したファイル [FO 17/768, FO 17/794] がある。左は李鴻章の淮軍が蘇州で太平天国軍を破り、蘇州を開城したことを伝える文書 [FO 17/395]。右は外務省表敬訪問、女王謁見、英国外相との会談等、公使に赴任した郭嵩燾に関する 1877 年のファイル [FO 17/768]。



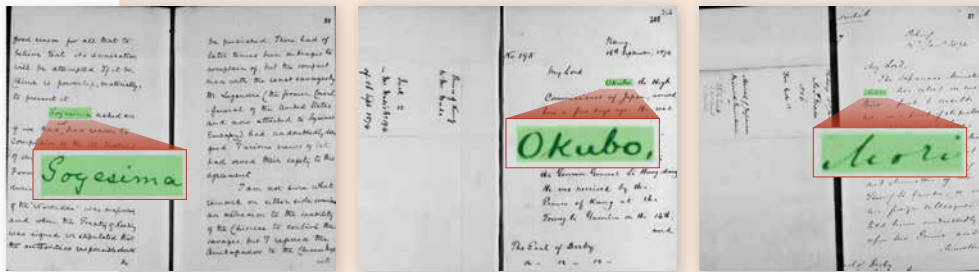
露清関係、新疆

ムスリムが反乱し、ロシアが領土的関心を持つ新疆は中国辺境の動乱地帯で、ロシアの南下を警戒するイギリスはその情勢に無関心ではいらなかった。左は李鴻章とトマス・ウェイドの間でヤークーブ・ベグと清朝の和解の可能性に関する協議が行われたことを示す文書 [FO 17/825]、右はイリ問題を巡るロシアとの交渉で清朝に不利な条約を調印した崇厚が朝廷から死刑を言い渡された問題に関して、英米仏独が共同で総理衙門に文書を提出したことを示す文書 [FO 17/830]。



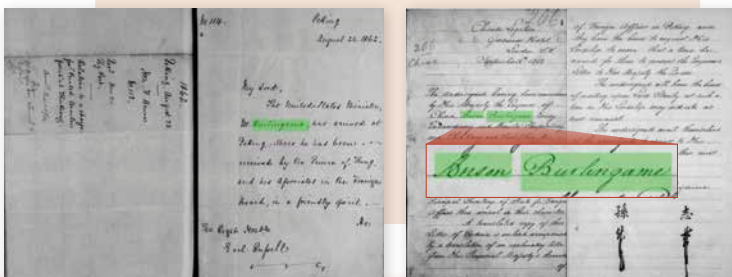
日清関係

日清修好条規で清と国交を樹立した日本。史料は日清間の交渉の仲介役を務めることもあった英国が日清関係をどう観察していたかを伝える。これらは公使トマス・ウェイドの外務省宛書簡で、左から副島種臣、大久保利通、森有礼の訪問を受けたことを報告している [FO 17/654, FO 17/675, FO 17/719]。副島は日清修好条規批准のため、大久保は台湾出兵後の交渉のため、森は江華島事件後の日朝交渉打開のため、北京入りしていた。



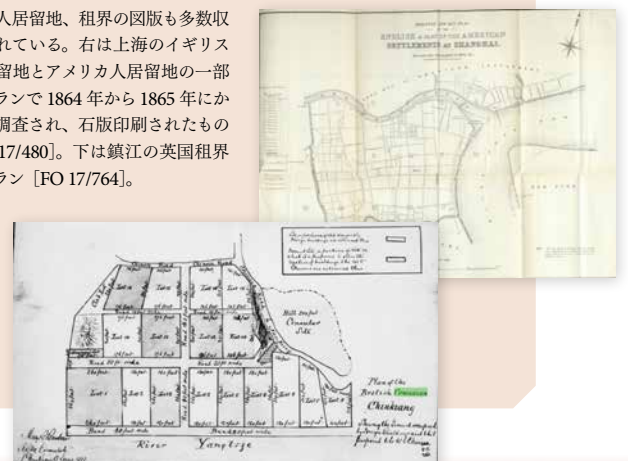
米清関係、バーリントンゲーム

協力政策を推進し、清朝の信頼を得た米国公使バーリントンゲームは、北京駐在外交官の中でも際立った存在で、その名前を冠したファイルがあるように、イギリスも高い関心を払った。左はバーリントンゲームの公使着任を報告するフレデリック・ブルース公使の外務省宛書簡 [FO 17/373]。右はバーリントンゲームが全権大使として率いた清朝吹米使節団のイギリス到着を英国政府に伝えるバーリントンゲーム自身の文書 [FO 17/504]。



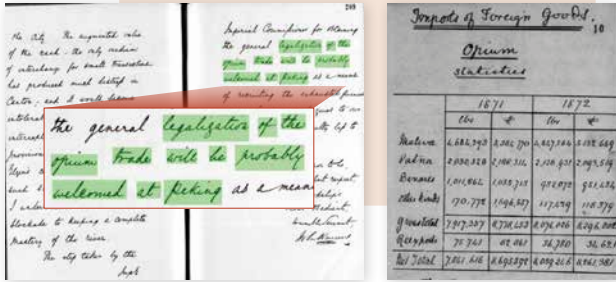
租界

外国人居留地、租界の図版も多数収録されている。右は上海のイギリス人居留地とアメリカ人居留地の一部のプランで 1864 年から 1865 年にかけて調査され、石版印刷されたもの [FO 17/480]。下は鎮江の英国租界のプラン [FO 17/764]。



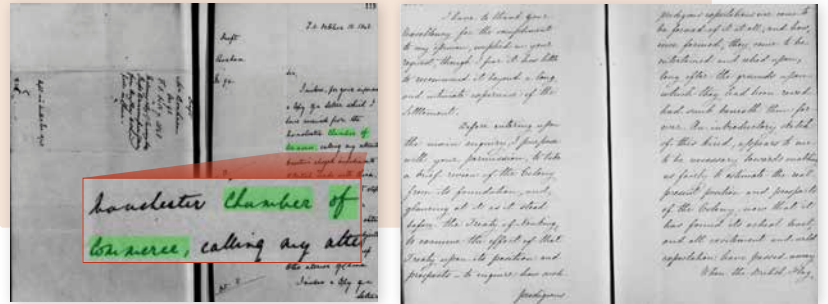
アヘン貿易

19世紀の英国と清朝間の最大の懸案、アヘン貿易に関する史料は夥しい数に上る。第二次アヘン戦争を経てアヘン貿易は自由化されるが、これは外国人による関税管理と軌を一にする。左はアヘン貿易自由化の1年前の香港総督パウリングの外務省宛書簡で、「アヘン貿易自由化は財政健全化の手段として北京でも歓迎されるだろう」との文言はこの間の事情を説明する [FO 17/271]。右は1873年の文書に掲載されたアヘン貿易統計 [FO 17/655]。



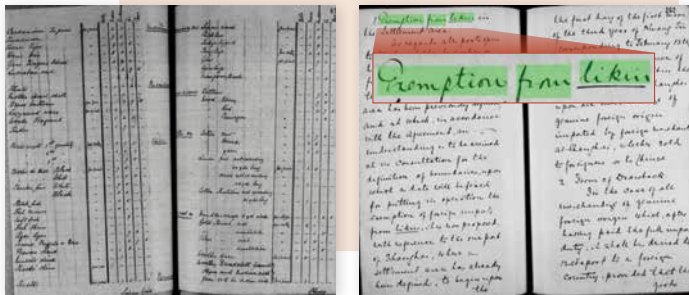
工業品貿易、在英商工会議所、ミッチェル報告

イギリスでは工業製品の対中貿易拡大を期待する声が高まったが、期待通りには拡大せず、実業家の不満が増大した。左は外務省の香港総督ボナム宛の書簡で、貿易障害を取り除き、対中貿易拡大策を講じるようマンチェスター商工会議所が強く求めていることを伝える文書 [FO 17/139]。これに対し、対中貿易不振の原因を分析したのが「ミッチェル報告」。右は香港総督ボナムの外務省宛書簡に添付された香港の貿易の現状と今後の見通しに関するミッチェルの60ページに亘る覚書の一部 (1850年)で、後に議会で提出された報告書より前の段階のもの [FO 17/183]。



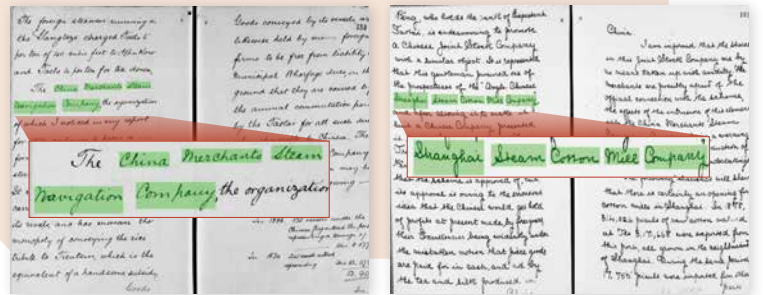
釐金

条約港の開港後も英国の中国内陸への通商は拡大しなかったが、その原因の一つが内地関税である釐金の存在。左は物品毎の釐金の表 [FO 17/650]。釐金は芝罘条約 (1876) により租界で免除されるが、右は釐金の免除に関する文書 [FO 17/728]。釐金等の関税に関しては一つのファイル [FO 17/650] が設けられている。



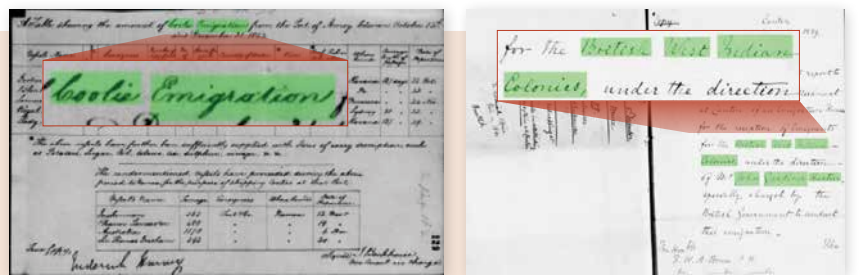
洋務運動、洋務企業

洋務運動と近代化は、外国資本からの自立の動きとしてイギリスはその動向に関心を払った。左は上海領事の貿易報告で李鴻章により設立された輪船招商局が11隻の汽船を所有し、低価格で輸送し、上海沿岸や揚子江で独占的地位を得ていることを報告する文書 [FO 17/708]。右は、中国の自前の紡績工場が嚮道に乗っていないことに関する上海領事の報告の中で上海機器織布局局について言及している [FO 17/817]。



海外移民、苦力貿易

中国の沿岸港は苦力と呼ばれた労働者が海外に出稼ぎに渡航する窓口となった。史料には夥しい数の苦力の海外移民に関する史料が収録されている。左は厦門からの苦力の海外移民に関する統計 [FO 17/199]、右は西インド諸島の英領植民地への海外移民のために広東に移民局を開設し、局長にジョン・ガーディナー・オースティンを任命したことを報告する文書 [FO 17/315]。



キリスト教布教、教案

天津条約 (1858) でキリスト教の内地布教権が認められると、外国人宣教師による布教活動が本格化した。教育や医療福祉活動を伴う布教は多くの信者を獲得する一方で、地元民の反発を招くこともあった。左は19世紀中国における最大の伝道団体、中国内地伝道団の文書 [FO 71/514]。反キリスト教の暴動はフランス領事殺害された天津教案 (1870) で最高潮に達し、外交問題に発展した。天津教案は「天津の虐殺」として6巻に亘りファイルが作成されている。右はその一部で、事件の処理に当たった直隸総督曾國藩の名前が見える [FO 17/609]。



※本データベースはFO 17の文書を完全収録しています。

- ◆ FO 17/1-2 : 回想パートI,II(1818-1832)
- ◆ FO 17/5 : ネイピア卿へ(1834)
- ◆ FO 17/15 : チャールズ・エリオット艦長から(1836-37)
- ◆ FO 17/18 : チャールズ・エリオット艦長へ(1837)
- ◆ FO 17/19-22 : サー・チャールズ・エリオットから(1837)
- ◆ FO 17/24 : ギュツラフの小論(1835-37)
- ◆ FO 17/25 : チャールズ・エリオット艦長へ(1838)
- ◆ FO 17/26-27 : チャールズ・エリオット艦長から(1838)
- ◆ FO 17/29 : チャールズ・エリオット艦長へ(1839)
- ◆ FO 17/30-33 : チャールズ・エリオット艦長から(1839)
- ◆ FO 17/37 : チャールズ・エリオット艦長と全権大使へ(1840)
- ◆ FO 17/38,40 : チャールズ・エリオット艦長と全権大使から(1840)
- ◆ FO 17/45 : チャールズ・エリオット艦長と全権大使へ(1841)
- ◆ FO 17/47-48 : 全権大使から(1841)
- ◆ FO 17/54 : サー・ヘンリー・ポティンジャーから(1841)
- ◆ FO 17/55-59 : サー・ヘンリー・ポティンジャーへ(1841-42)
- ◆ FO 17/64-65 : サー・ヘンリー・ポティンジャーへ(1843)
- ◆ FO 17/66-71 : サー・ヘンリー・ポティンジャーから(1843)
- ◆ FO 17/78-84 : サー・ヘンリー・ポティンジャーから(1844)
- ◆ FO 17/85-86 : デイヴィス氏へ(1844)
- ◆ FO 17/87-90 : デイヴィス氏から(1844)
- ◆ FO 17/96 : サー・ジョン・デイヴィスへ(1845)
- ◆ FO 17/97-102 : サー・ジョン・デイヴィスから(1845)
- ◆ FO 17/108 : サー・ジョン・デイヴィスへ(1846)
- ◆ FO 17/109-115 : サー・ジョン・デイヴィスから(1846)
- ◆ FO 17/121-122 : サー・ジョン・デイヴィスへ(1847)
- ◆ FO 17/123-129 : サー・ジョン・デイヴィスから(1847)
- ◆ FO 17/130 : サー・ジョン・デイヴィスとダギラー將軍から(1847)
- ◆ FO 17/131-132 : サー・ジョン・デイヴィスから(1847)
- ◆ FO 17/139 : ボナム氏 草稿(1848)
- ◆ FO 17/140 : サー・ジョン・デイヴィス(1848)
- ◆ FO 17/141 : サー・ジョン・デイヴィスとボナム氏(1848)
- ◆ FO 17/142-146 : ボナム氏(1848)
- ◆ FO 17/152-154 : ボナム氏 原稿(1849)
- ◆ FO 17/155-159 : ボナム氏(1849)
- ◆ FO 17/164 : ボナム氏 原稿(1850)
- ◆ FO 17/165-170 : ボナム氏(1850)
- ◆ FO 17/174 : サー・ジョージ・ボナム 草稿(1851)
- ◆ FO 17/175-181 : サー・ジョージ・ボナム(1851)
- ◆ FO 17/186 : サー・ジョージ・ボナムとパウリング博士 草稿(1852)
- ◆ FO 17/187 : サー・ジョージ・ボナム(1852)
- ◆ FO 17/189 : パウリング博士(1852)
- ◆ FO 17/190-193 : パウリング博士とサー・ジョージ・ボナム(1852)
- ◆ FO 17/194 : パウリング博士(1852)
- ◆ FO 17/198 : サー・ジョージ・ボナム 草稿(1852)
- ◆ FO 17/199 : パウリング博士とサー・ジョージ・ボナムからの書簡(1853)
- ◆ FO 17/200-205 : サー・ジョージ・ボナム(1853)
- ◆ FO 17/210 : サー・ジョージ・ボナムとサー・ジョン・パウリング 草稿(1853-1854)
- ◆ FO 17/212 : サー・ジョージ・ボナムとサー・ジョン・パウリング(1854)
- ◆ FO 17/213 : サー・ジョン・パウリング(1854)
- ◆ FO 17/214-215 : サー・ジョン・パウリングとサー・ジョージ・ボナム(1854)
- ◆ FO 17/216-218 : サー・ジョン・パウリングとロバートソン氏(1854)
- ◆ FO 17/224-225 : サー・ジョン・パウリング 草稿(1855)
- ◆ FO 17/226 : サー・ジョン・パウリング(1855)
- ◆ FO 17/227-229 : サー・ジョン・パウリングとウッドゲイト氏(1855)
- ◆ FO 17/230-235 : サー・ジョン・パウリング(1855)
- ◆ FO 17/236 : パークス領事(シヤム)(1855)
- ◆ FO 17/242 : サー・ジョン・パウリング 草稿(1856)
- ◆ FO 17/244-253 : サー・ジョン・パウリング(1856)
- ◆ FO 17/261-273 : サー・ジョン・パウリングへ(1857)
- ◆ FO 17/274 : エルギン卿へ(1857)
- ◆ FO 17/275-277 : エルギン卿から(1857)
- ◆ FO 17/284 : エルギン卿へ(1858)
- ◆ FO 17/285-291 : エルギン卿へ(1858)
- ◆ FO 17/292 : サー・ジョン・パウリングへ(1858)
- ◆ FO 17/293 : サー・ジョン・パウリング(1858)
- ◆ FO 17/294 : サー・ジョン・パウリングから(1858)
- ◆ FO 17/295 : サー・ジョン・パウリング(1858)
- ◆ FO 17/296-301 : サー・ジョン・パウリングから(1858)
- ◆ FO 17/308 : 寧波の騒擾(1857-58)
- ◆ FO 17/309-310 : 上海の関税問題 第3,4巻(1854-59)
- ◆ FO 17/311 : フレデリック・ブルースへ(1859)
- ◆ FO 17/312 : フレデリック・ブルースから(1859)
- ◆ FO 17/313-315 : フレデリック・ブルース(1859)
- ◆ FO 17/316 : サー・ジョン・パウリングへ(1859)
- ◆ FO 17/318 : サー・ジョン・パウリングから(1859)
- ◆ FO 17/319 : ウィンチェスター領事(1859)
- ◆ FO 17/328 : エルギン卿(特別使節)(1859)
- ◆ FO 17/329 : エルギン卿へ(1860)
- ◆ FO 17/330-332 : エルギン卿へ(1860)
- ◆ FO 17/333-334 : ブルース氏へ(1860)
- ◆ FO 17/335-339 : ブルース氏から(1860)
- ◆ FO 17/348-49 : ブルース氏へ(1861)
- ◆ FO 17/350-357 : ブルース氏から(1861)
- ◆ FO 17/359 : エルギン卿(特別使節)(1861)
- ◆ FO 17/368-369 : ブルース氏へ(1862)
- ◆ FO 17/370 : ブルース氏から(1862)
- ◆ FO 17/371-372 : ブルース氏へ(1862)
- ◆ FO 17/373 : ブルース氏から(1862)
- ◆ FO 17/374-375 : ブルース氏へ(1862)
- ◆ FO 17/377 : 上海領事、メドハースト、パークス、マーカム(1862)
- ◆ FO 17378 : 寧波、福州領事、ハーヴェイ、シンクレア(1862)
- ◆ FO 17/388-389 : サー・フレデリック・ブルースへ(1863)
- ◆ FO 17/390 : サー・フレデリック・ブルースから(1863)
- ◆ FO 17/391-395 : サー・フレデリック・ブルース(1863)
- ◆ FO 17/396 : 上海領事、メドハースト、マーカム(1863)
- ◆ FO 17/406 : サー・フレデリック・ブルースへ、ウェイド氏へ(1864)
- ◆ FO 17/407-408 : サー・フレデリック・ブルースから(1864)
- ◆ FO 17/409 : サー・フレデリック・ブルースとウェイド氏から(1864)
- ◆ FO 17/410-411 : ウェイド氏、サー・フレデリック・ブルースから(1864)
- ◆ FO 17/412 : 上海領事、パークス、アドキンス、マーカム(1864)
- ◆ FO 17/420 : ウェイド氏、サー・フレデリック・ブルース、並びにサー・ラザフォード・オルコックへ(1865)
- ◆ FO 17/421 : ウェイド氏とサー・ラザフォード・オルコックへ(1865)
- ◆ FO 17/422 : ウェイド氏へ(1865)
- ◆ FO 17/423 : ウェイド氏とサー・フレデリック・ブルースから(1865)
- ◆ FO 17/424 : ウェイド氏から(1865)
- ◆ FO 17/425 : ウェイド氏とサー・ラザフォード・オルコックから(1865)
- ◆ FO 17/426-430 : ウェイド氏から(1865)
- ◆ FO 17/431-432 : ウェイド氏とサー・ラザフォード・オルコックから(1865)
- ◆ FO 17/434 : 広東領事、ロバートソン(1865)
- ◆ FO 17/445-452 : サー・ラザフォード・オルコックへ(1866)
- ◆ FO 17/454-455 : 上海領事、ウィンチェスター(1866)
- ◆ FO 17/456 : 漢口領事、メドハースト(1866)
- ◆ FO 17/457 : 広東領事、ロバートソン、マイヤーズ(1866)
- ◆ FO 17/472-473 : サー・ラザフォード・オルコックへ(1867)
- ◆ FO 17/474-478 : サー・ラザフォード・オルコックから(1867)
- ◆ FO 17/480 : 上海領事、ウィンチェスター(1867)
- ◆ FO 17/481 : 広東領事、ロバートソン(1867)
- ◆ FO 17/484 : 台湾、寧波領事、キャロル、フォレスト(1867)
- ◆ FO 17/494-495 : サー・ラザフォード・オルコックへ(1868)

- ◆ FO 17/496-501 : サー・ラザフォード・オルコックから(1868)
- ◆ FO 17/503 : 上海領事、ウィンチェスター、フォレスト、メドハースト(1868)
- ◆ FO 17/504 : バーリンゲーム氏、広東領事、ロバートソン(1868)
- ◆ FO 17/505 : 福州、鎮江、芝罘、仙頭領事、シンクレア、ハーヴェイ、マーカム、アラバスター、ケイン、トムソン(1868)
- ◆ FO 17/516-517 : サー・ラザフォード・オルコックへ(1869)
- ◆ FO 17/518-524 : サー・ラザフォード・オルコックから(1869)
- ◆ FO 17/525 : サー・ラザフォード・オルコック、フレイザー氏、ウェイド氏から(1869)
- ◆ FO 17/527 : サー・ラザフォード・オルコック(領事)へ(1869)
- ◆ FO 17/528 : サー・ラザフォード・オルコック(領事)から(1869)
- ◆ FO 17/529 : サー・ラザフォード・オルコック、フレイザー氏、並びにウェイド氏から(1869)
- ◆ FO 17/531-532 : 上海領事、ウィンチェスター、代理領事、メドハースト、フォレスト(1869)
- ◆ FO 17/533 : 広東領事、ロバートソン、代理領事、マイヤーズ(1869)
- ◆ FO 17/547-548 : サー・ラザフォード・オルコック、ウェイド氏、急送文書(1870)
- ◆ FO 17/549 : ウェイド氏、サー・ラザフォード・オルコック(1870)
- ◆ FO 17/550-552 : ウェイド氏(1870)
- ◆ FO 17/553 : ウェイド氏、サー・ラザフォード・オルコック(1870)
- ◆ FO 17/554 : ウェイド氏、サー・ラザフォード・オルコック、領事、草稿(1870)
- ◆ FO 17/555-556 : ウェイド氏、サー・ラザフォード・オルコック、急送文書、領事(1870)
- ◆ FO 17/559 : 広東、寧波領事、ロバートソン、フィットク(1870)
- ◆ FO 17/571-581 : 天津条約 第1-11巻(1867-1870)
- ◆ FO 17/582 : サー・ラザフォード・オルコック、ウェイド氏 草稿(1871)
- ◆ FO 17/583 : サー・ラザフォード・オルコック、ウェイド氏、急送文書(1871)
- ◆ FO 17/584 : ウェイド氏(1871)
- ◆ FO 17/585 : サー・ラザフォード・オルコック、ウェイド氏(1871)
- ◆ FO 17/586-592 : ウェイド氏(1871)
- ◆ FO 17/607-612 : 天津虐殺事件(1870-71)
- ◆ FO 17/613-616 : 犯罪人引渡 第1-4巻(1865-1871)
- ◆ FO 17/617-620 : 中国、日本、シヤムにおける学生通訳の任命(1863-1871)
- ◆ FO 17/625 : ウェイド氏、草稿(1872)
- ◆ FO 17/626-633 : ウェイド氏、急送文書(1872)
- ◆ FO 17/634 : ウェイド氏、領事、草稿(1872)
- ◆ FO 17/635-636 : ウェイド氏、急送文書、領事(1872)
- ◆ FO 17/650 : 釐金その他の同種の税、ウェイド氏の回状に対する領事の報告(1871-1872)
- ◆ FO 17/651 : ウェイド氏、草稿(1873)
- ◆ FO 17/652-654 : ウェイド氏、急送文書(1873)
- ◆ FO 17/655-656 : ウェイド氏、サンフォード氏、急送文書(1873)
- ◆ FO 17/657 : ウェイド氏、領事、草稿(1873)
- ◆ FO 17/658 : ウェイド氏、領事、急送文書(1873)
- ◆ FO 17/659 : ウェイド氏、サンフォード氏、領事、急送文書(1873)
- ◆ FO 17/671 : ウェイド氏、草稿(1874)
- ◆ FO 17/672-677 : ウェイド氏(1874)
- ◆ FO 17/678 : ウェイド氏、領事、草稿(1874)
- ◆ FO 17/679-680 : ウェイド氏、領事、急送文書(1874)
- ◆ FO 17/683-684 : 広東領事、サー・ブルーク・ロバートソン(1874)
- ◆ FO 17/695-696 : ウェイド氏、草稿(1875)
- ◆ FO 17/697-702 : ウェイド氏、急送文書(1875)
- ◆ FO 17/703 : ウェイド氏、領事、草稿(1875)
- ◆ FO 17/704 : ウェイド氏、領事、急送文書(1875)
- ◆ FO 17/705 : 廈門、広東、芝罘領事、バダー、フィリップス、ロバートソン、レイ(1857-1875)
- ◆ FO 17/716 : 中国北部の主教(1866-1875)
- ◆ FO 17/717 : 天津条約 第12巻(1871-1875)
- ◆ FO 17/718 : サー・トマス・ウェイド 草稿(1876)
- ◆ FO 17/718-727 : サー・トマス・ウェイド(1876)
- ◆ FO 17/728 : サー・トマス・ウェイド、急送文書とフレイザー氏(1876)
- ◆ FO 17/729 : サー・トマス・ウェイド、領事、草稿と急送文書(1876)
- ◆ FO 17/730 : サー・トマス・ウェイド、草稿と急送文書、フレイザー氏(1876)
- ◆ FO 17/731 : 廈門、広東領事、フィリップス、アラバスター、ロバートソン(1876)
- ◆ FO 17/742-747 : 雲南使節、マーガリー氏殺害、グロヴナー氏使節(1875-76)
- ◆ FO 17/748-750 : 謁見の問題(1873)
- ◆ FO 17/751-752 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイドへ(1877)
- ◆ FO 17/753 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド(1877)
- ◆ FO 17/754 : フレイザー氏(1877)
- ◆ FO 17/755-756 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド(1877)
- ◆ FO 17/757 : サー・トマス・ウェイド(1877)
- ◆ FO 17/758 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド(1877)
- ◆ FO 17/759 : フレイザー氏(1877)
- ◆ FO 17/760 : サー・トマス・ウェイド、フレイザー氏、領事(1877)
- ◆ FO 17/761 : サー・トマス・ウェイド、フレイザー氏、領事(1877)
- ◆ FO 17/763 : 広東、福州領事、ロバートソン、ペダー、シンクレア(1877)
- ◆ FO 17/775-776 : 芝罘条約(1877)
- ◆ FO 17/777-778 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイドへ(1878)
- ◆ FO 17/779-780 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド(1878)
- ◆ FO 17/781 : フレイザー氏(1878)
- ◆ FO 17/782 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド(1878)
- ◆ FO 17/783 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド、ミルバンク氏(1878)
- ◆ FO 17/784 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド、領事(1878)
- ◆ FO 17/785 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド、領事(1878)
- ◆ FO 17/786 : 広東、廈門領事、ロバートソン、ハンス、モンガン、アラバスター、ペダー(1878)
- ◆ FO 17/788 : 寧波、漢口、芝罘、營口、クーパー、ヒューズ、ジャミーソン、ガードナー、アドキンス(1878)
- ◆ FO 17/799 : 犯罪人引渡 第5巻(1875-78)
- ◆ FO 17/802-807 : 中国沿海の海賊(1864-1878)
- ◆ FO 17/808 : フレイザー氏、サー・トマス・ウェイドへ(1879)
- ◆ FO 17/809 : ミルバンク氏、フレイザー氏、サー・トマス・ウェイド(1879)
- ◆ FO 17/810-1811 : サー・トマス・ウェイド(1879)
- ◆ FO 17/812 : サー・トマス・ウェイド、フレイザー氏、領事(1879)
- ◆ FO 17/813 : サー・トマス・ウェイド、フレイザー氏、ミルバンク氏、領事(1879)
- ◆ FO 17/814 : 廈門、広東領事、アラバスター、モンガン、ハンス(1879)
- ◆ FO 17/825-826 : カシュガル作戦、借款他(1876-79)
- ◆ FO 17/827-828 : サー・トマス・ウェイドへ(1880)
- ◆ FO 17/829-832 : サー・トマス・ウェイド(1880)
- ◆ FO 17/833 : サー・トマス・ウェイド、グロヴナー氏(1880)
- ◆ FO 17/834 : サー・トマス・ウェイドへ、領事(1880)
- ◆ FO 17/835 : サー・トマス・ウェイド、グロヴナー氏、領事(1880)
- ◆ FO 17/836 : 廈門領事、フォレスト、ジャイルズ、領事、通商(1880)
- ◆ FO 17/837 : 広東領事、ヒューレット(1880)
- ◆ FO 17/853-855 : 福州の反宣教師暴動(1878-1880)
- ◆ FO 17/856 : サー・トマス・ウェイドへ(1881)
- ◆ FO 17/857-858 : サー・トマス・ウェイド(1881)
- ◆ FO 17/859 : サー・トマス・ウェイド、電信(1881)
- ◆ FO 17/860 : サー・トマス・ウェイド、領事(1881)
- ◆ FO 17/862 : 広東、仙頭の領事、ヒューレット、ハンス、グレゴリー、澳門副領事、マレー(1881)
- ◆ FO 17/864 : 福州、芝罘、寧波、漢口の領事、シンクレア、クーパー、アレン、アラバスター(1881)
- ◆ FO 17/866 : 天津、北京、上海の領事、ダヴェンポート、プリストウ、バロック、スコット、ヒューズ(1881)

データベースの概要

収録資料：英国外務省ファイル FO 17 (Foreign Office: Political and Other Departments: General Correspondence before 1906, China)、FO 83 (Foreign and Commonwealth Office and predecessors: Political and Other Departments: General Correspondence before 1906, Great Britain and General)

FO 605 (Foreign Office: Registers (Library Series) and Indexes of General Correspondence)、

パートI：FO 17/1-872、パートII：FO 17/873-1769/6、FO 83/2247-2253

(FO 605/44-51は画像データを提供するとともにFO 17のメタデータとして統合)

リリース時期：パートI：2021年3月、パートII：2021年12月(予定)

収録文書の種別：タイプ打ち原稿、手稿(フルテキスト検索に対応)

収録資料の期間：Part I：1815-1881年、Part II：1865-1905年(年代は重複しますが、パート間の資料の重複はございません)

収録資料のページ数：約110万ページ(予定)(パートI：約54万ページ、パートII：約61万ページ(予定))

収録資料の言語：英語(一部中国語・フランス語など)

原資料所蔵機関：英国公文書館

機能：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDFファイルのダウンロード、OCR/HTRテキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google/Microsoftログインとクラウド連携を実装

解題(英語)

[FO 17を活用した近代中国史の再解釈](本野英一、早稲田大学政治経済学部教授)

[オールコックの服装規定と中国系イギリス臣民](村上衛、京都大学人文科学研究所准教授)

[中国史と世界史にとってのFO 17の価値](ハンス・ヴァン・デ・ヴェン、ケンブリッジ大学教授)

[外務省帝国主義：中国の条約港とイギリス外務省](イザベラ・ジャクソン、トリニティ・カレッジ・ダブリン准教授)

[FO 17(英国外務省中国関係文書 1815-1905年)入門](スティーヴン・R・ブラット、マサチューセッツ大学アマースト校教授)

China and the Modern Worldシリーズの他パート

China and the Modern World: Missionary, Sinology, and Literary Periodicals (1817-1949)

The Chinese Recorderなど、近代中国の英文雑誌17誌を収録

- ◆ The Chinese Recorder (教務雑誌, 1867-1941)
- ◆ The West China Missionary News (華西教會新聞, 1899-1943)
- ◆ The China Mission / Christian Year Book (中國基督教年鑑, 1910-1939)
- ◆ Educational Review: continuing the monthly bulletin of the Educational
- ◆ Association of China (教育季報, 1907-1938)
- ◆ Canton Miscellany (廣州雜誌, 1831)
- ◆ Chinese Miscellany (中國雜誌, 1845-1850)
- ◆ The Chinese and Japanese Repository (中日叢報, 1863-1865)
- ◆ Notes and Queries on China and Japan (中日釋疑, 1867-1869)
- ◆ The China Review: or Notes and Queries on the Far East (中國評論, 1872-1901)
- ◆ The New China Review (新中國評論, 1919-1922)
- ◆ Indo-Chinese Gleaner (印中搜聞, 1817-1822)
- ◆ Bulletin of the Catholic University of Peking (輔仁英文學志, 1926-1934)
- ◆ The Yenching Journal of Social Studies (燕京社會學界, 1938-1950)
- ◆ The China Quarterly (英文中國季刊, 1935-1941)
- ◆ T'ien Hsia Monthly (天下月刊, 1935-1941)
- ◆ The China Critic (中國評論週報, 1928-1946)
- ◆ The China Year Book (中華年鑑, 1912-1939)

China and the Modern World: Records of the Maritime Customs Service of China (1854-1949)

南京の第二歴史檔案館所蔵の中国海関文書(総稅務司通令/ロンドン事務所文書/条約港からの准公式書簡/貿易取締関係文書/日中戦争とその後の国共内戦期関係文書)を電子化

China and the Modern World: Diplomacy and Political Secrets (1869-1950)

英インド省の政務・機密部門、ビルマ局、軍事部門の中国関係文書4,204点を精選して電子化

China and the Modern World: Hong Kong, Britain, and China (1841-1951)

英植民地省ファイルCO129を電子化、香港110年の歴史に迫る画期的コレクション

関連商品

The Earl George Macartney Collection (Archives Unbound)

ジョージ・マカートニー中国使節団関係文書集(コーネル大学附属図書館所蔵)

Papers of British Consulates and Legation in China, 1722-1951 (Archives Unbound)

清朝と中華民国における英国領事館、公使館文書集成。外務省創設以前の文書も含む。



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける1ヶ月の無料トライアルをご提供しております。

商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社までお願いします。

Tel: 03-3511-4390 E-mail: GaleJapan@cengage.com URL: www.gale.com/jp